



ケンチクとは、力であり、生きる事である。

被災によって、住宅と供に近隣コミュニティが破壊される。これは、応急仮設住宅がある中で、応急仮設の企画寸法と世帯人数で自動的に、振り分けられてしまうことでも起きている。そのため、行政は応急仮設住宅内に集会所などを設置する。集会所とは近隣コミュニティのための集まる空間である。

現在の集会所などの施設では、管理者が用意され、住民が来るのを待ち望んでいる。与えられる集会所は、仮設住宅入居時から与えられたり、外観が変わらないためか、比較的に認知もされにくい。そのため、利用人数は極少数で、利用世代も限定されていく・・・。

「集・会・場」というものは、皆のものであり平等に使うことができる場所だと考えている。

学生が建設行為を行うと、そこに力が発生し、コミュニティが構築するのではないかと考えた。

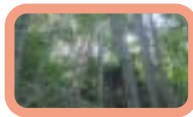
そしてそれは、集まれる場所として、住民の通り道をまたぐような建築を計画する。災害時、資源の無い時にこそ行われるべき、学生の建設行為の一連の流れを提案する。



学生レベルで行える自力施工を考える。自力施工は建物を作る行為であるから、材料を集めることから考えた。現地の源土運動広場前、応急仮設住宅地付近2kmに刈羽村の孟宗竹が生育している。

所在地：  
新潟県刈羽村刈羽地区  
源土運動広場前応急仮設住宅  
敷地面積：12500㎡  
述〜床面積：50㎡

刈羽村社会福祉協議会・裏山  
敷地面積 約20000㎡



徒歩 30分  
自転車 15分  
車 5分

■ 裏山 — ■ 源土応急仮設住宅

社会福祉協議会裏山 2000m 源土応急仮設住宅

## 現地調査

### ◆ 取材・アンケート

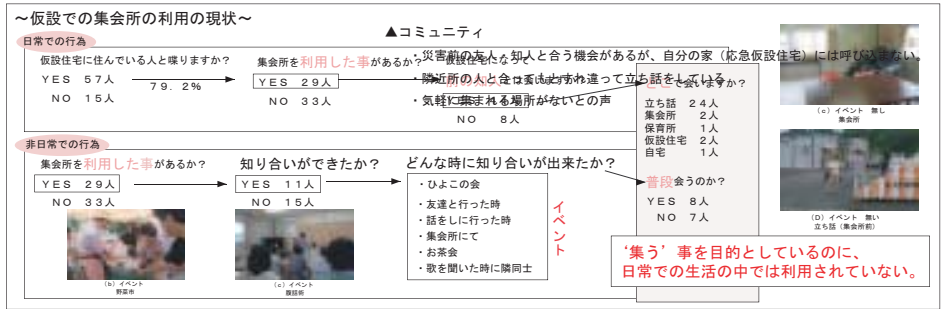
調査期間 8月31日～10月23日  
 対象敷地 新潟県柏崎市刈羽村瀬戸運動広場応急仮設住宅 200世帯  
 集会所  
 現れ方 瀬戸運動広場前仮設住宅と同時に建設  
 仮設住宅の入居8月15日と同時に開放  
 管理 社会福祉協議会が毎日AM10:00～16:15まで開放  
 告知 住民の仮設住宅入居時に集会所の有無を知らせる  
 イベント  
 定期的イベント  
 地元有志 月、水、木 お茶会 AM10:00～12:00  
 地元有志 木 青空市場 AM10:00～12:00  
 業者 火、木 移動販売 AM10:00～17:00  
 突発的イベント  
 学生 足湯  
 生協 陶器市  
 社会福祉協議会 温泉ツアー  
 中越復興市民会議 餅つき  
 能登応援団 太巻き会  
 e t c . . .

現地での応急仮設住宅地での暮らしを取材、アンケートを行った。  
 取材・アンケートの調査要点は、現在の集まる場所の有無や、現在の建物のコミュニティの話である。  
 以下の要点が主に挙げたことである。

- ▲集会所の利用者の偏り
- ・現在の集会所では、平日のいる人達である程度の賑わいがある。
  - ・利用機会が多い人が扱う事によって、利用機会の少ない人での境ができています。
  - ・集会所に入りにくいとの声
- ▲集会所の認知
- ・集会所の存在を知らない人（仮設入居2ヶ月）
  - ・集会所の管理を知らない（仮設入居2ヶ月）
  - ・集会所は入居時に説明があっただけで覚えていない。



(a) 集会所



### ◆ 目の前で場所作り

集会所の前でイベント(目的)が行われた。  
 生協による瀬戸物市である。瀬戸物と衣類を無慮配布をする。時間はPM4:30から開催された。時間はPM5:00だったが、住民が待てないとの事で急遽、30分早く開催される事になった。  
 開催され、ものの数分で大盛況であった。その一角に談話スペースを計画、配置した。

今回の場所を確保するための道具は以下の四種、

ダンボールプラスチック	1800×900	4枚	折りたたみ式台	1800×450	2台
ゴザ	20000×900	2枚	座布団	400×400	9枚



小道具は以下の通り  
 集会所の前にテントが張られる。  
 瀬戸物市が開催。  
 テント西側に設置した。  
 この時の集会所の利用人数は中学生が二人。



集会所は、集うことを目的としているのだが、日常行為ではほとんど使われていない。逆に非日常行為(イベント時)では人が集まる循環がある。  
 応急仮設住宅地では、集まる場所が住民に知らせないで作られているから、集まることがなくなる。  
 イベントなどの住民が居る時に作り、認知させる事で、使いやすくなる事を確認した。  
 そして、上記のことから、イベントとして**学生が作った建築物**を置く事で、住民が集まるだけでなく、復興への自立性を養う「**公共建築**」になりうるのではないかと仮説を立てた。

## 竹の小屋デザイン

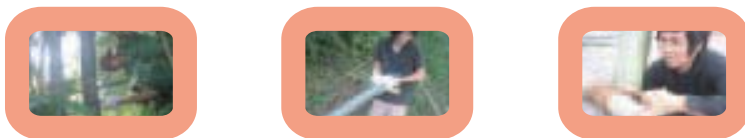
### ◆ 長さの高さと自然現象と形



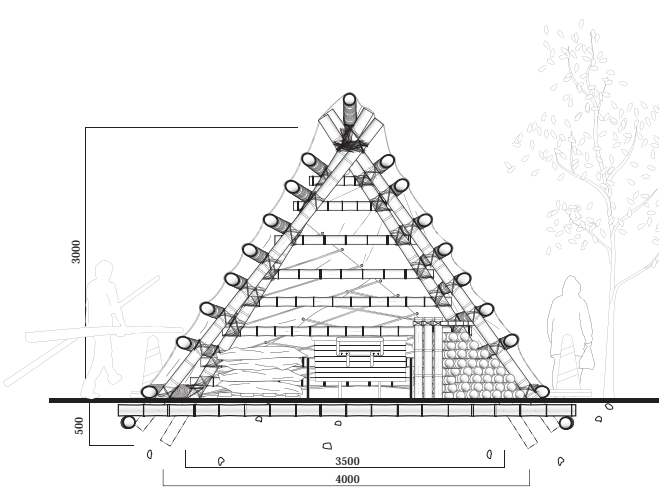
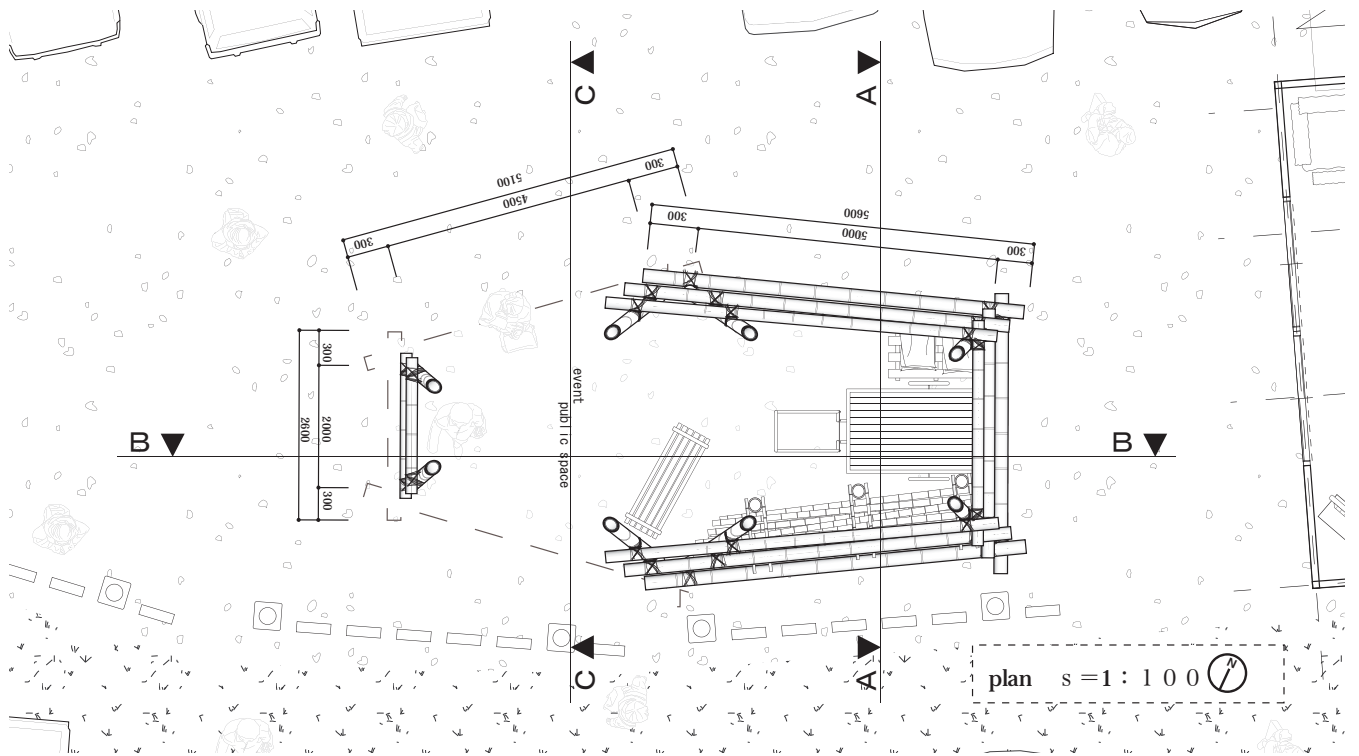
竹のデザインで、三角形を用いる事で、上記のひずみを和らげることができる。

## 竹小屋の作業工程

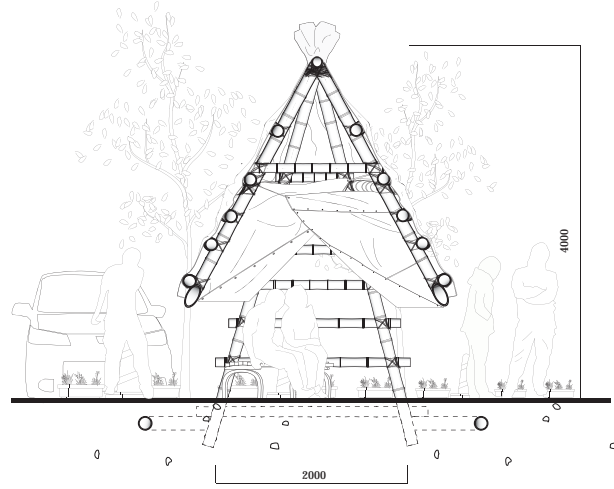
### ◆ 作業の単純化



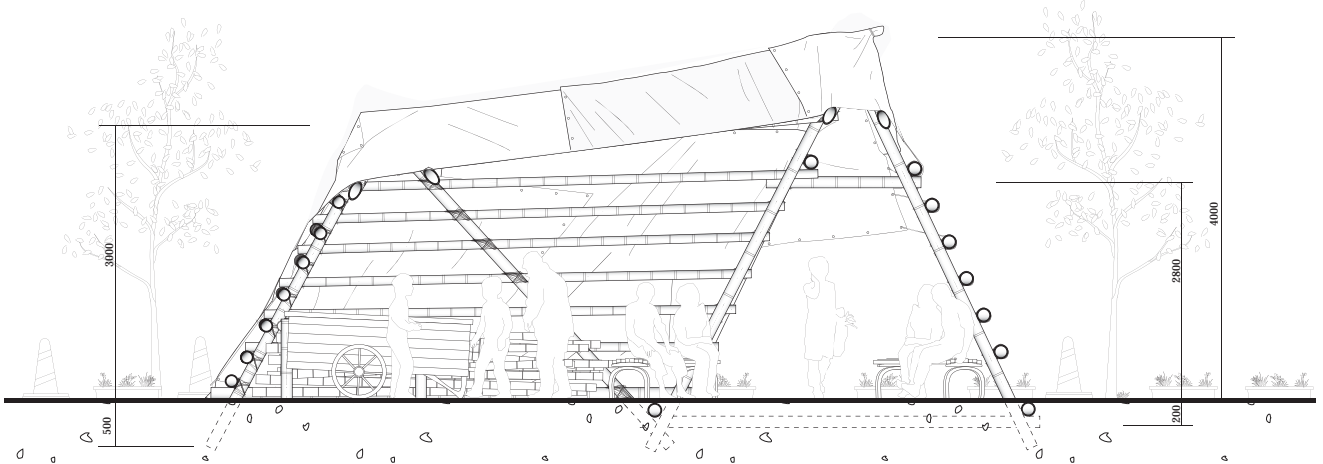
切る。運ぶ。結ぶ(つなげる)。の単純作業を行う。  
 作業を単純化することで、行ないやすくなる。



A-A' 断面図 1/75



C-C' 断面図 1/75

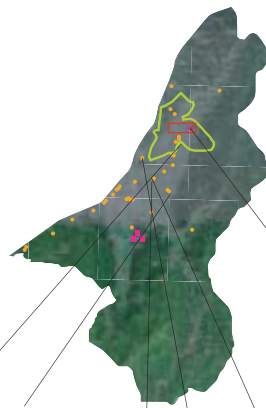


B-B' 断面図 1/75



## 建築行為

学生支援活動の継続



建築学科のある大学



学生の支援活動によって、新しいコミュニケーションの発端が生まれていく。

被災時での、支援としてコミュニティの発生を促す。応急仮設住宅地でのコミュニケーションの一端・共通の明るい話題として、意識を持たせることができた。

さらに、この建築行為を行う事で、支援活動を行った学生のコミュニケーション・地域との関わりを知るきっかけなどの学習体験としても機能した。また、こういった今までの市役所、住民、ボランティアで留まっていた関係を想定すると、この建設行為と建築で地域に学生が入り込めることが考えられ、新しい活性を生み出すことが可能である。